

2014年12月19日

中日本高速道路株式会社

2015年3月期 中間決算（連結）の概要**1. 業績の概況**

当中間連結会計年度（自 2014年4月1日 至 2014年9月30日）（単位：億円）

	2014年度 上期実績 A	2013年度 上期実績 B	増 減	
			金額 A-B	% A/B*100
営業収益	5,265	3,159	2,105	166.6
高速道路事業	5,050	2,892	2,158	174.6
(料金収入)	3,201	2,612	588	122.5
(道路資産完成高)	1,844	274	1,569	671.5
(その他)	4	4	▲0	88.0
関連事業	214	267	▲52	80.4
(休憩所事業)	164	219	▲55	74.9
(その他)	50	47	2	105.6
営業費用	5,177	3,005	2,172	172.3
高速道路事業	4,991	2,771	2,219	180.1
(道路資産賃借料)	2,347	1,808	538	129.8
(道路資産完成原価)	1,844	274	1,569	671.5
(管理費用等)	799	688	111	116.1
関連事業	186	234	▲47	79.8
(休憩所事業)	133	185	▲51	72.4
(その他)	53	49	3	107.6
営業利益	87	153	▲66	56.7
高速道路事業	59	121	▲61	49.1
関連事業	27	32	▲4	84.8
経常利益	100	160	▲60	62.6
中間純利益	57	102	▲45	56.3

※ 実績金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(注) 事業内容の種類、性質等の類似性、損益集計区分及び関連資産に照らし、以下のように事業区分を行っております。

事業	業務内容	
高速道路事業	建設事業	高速道路の新設、改築
	保全・サービス事業	高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理
関連事業	休憩所事業	高速道路内におけるサービスエリアの建設、管理及び運営
	その他（関連）事業	受託事業、トラクターミナル事業、占用施設活用事業、物販事業、旅行事業、海外事業、カードサービス事業等

2. トピックス

(1) 高速道路事業

(実施した施策)

○安全性向上3カ年計画に基づく施策

北陸自動車道の今庄トンネル及び敦賀トンネルの換気設備を撤去するとともに、トンネル内のジェットファンへの二重の安全対策などを実施しています。

道路上の重量構造物に対する安全対策進捗率は、平成26年9月30日時点で52%です。

○ネットワークの整備

・首都圏中央連絡自動車道……東名高速道路、中央自動車道及び関越自動車道を接続

相模原愛川インターチェンジ～高尾山インターチェンジ間 14.8 km 平成26年6月28日開通

・舞鶴若狭自動車道……北陸自動車道と中国自動車道を接続

小浜インターチェンジ～敦賀ジャンクション間 39 km 平成26年7月20日開通

(上期業績)

○営業収益は5,050億円(前年同期比2,158億円増)となりました。

このうち、通行料金収入は3,201億円(同588億円増)でした。

1日あたりの取扱通行台数は189万台(同3.2%減)でした。

○営業費用は4,991億円(同2,219億円増)となりました。

このうち、道路資産賃借料は2,347億円(同538億円増)でした。

管理費用等は799億円(同111億円増)で、これは、主にETC平日朝夕割引の実施に伴い、ETCマイレージサービスに還元する割引相当額を利用促進費に計上したことによるものです。

○営業収益及び営業費用のうち道路資産完成高及び道路資産完成原価は、それぞれ1,844億円(同1,569億円増)でした。※

※道路資産完成高及び道路資産完成原価の増加は、当中間連結会計期間の損益に影響していません。

○営業利益は59億円(同61億円減)となりました。

(2) 関連事業

(実施した施策)

○新規サービスエリアの開業

・首都圏中央連絡自動車道 厚木PA(内回り・外回り)・・・平成26年6月28日オープン

・舞鶴若狭自動車道 三方五湖PA(集約)・・・・・・・・平成26年7月20日オープン

○各種イベントの開催・地域との連携

・東名高速道路 EXPASA 足柄(下り)では、昨年度から引き続き実施しているテレビ局とのタイアップイベントを長期開催するなど、サービスエリアの新しい魅力を高める売り場づくりを展開しました。

・地域食材を活かした「SA・PAスイーツコンテスト」の開催や地元野菜の販売や地元商品の品揃えの充実など、地域活性化や地域社会との連携強化に努めました。

(上期業績)

○営業収益は214億円(前年同期比52億円減)となりました。

これは、主に、ガソリン事業の運営スキーム※の変更などによるものです。

○営業費用は186億円(同47億円減)となりました。

これは、主に、ガソリン事業の運営スキームの変更などによるものです。

○営業利益は27億円(同4億円減)となりました。

※ ガソリン事業の一部運営箇所について、当社の子会社である中日本エクシス(株)の直営運営からテナント運営に移行したこと。

3. 通期見込

(単位：億円)

	2014年度 通期見込 A	2014年度 通期見込 (2014.6.5公表) B	増 減	
			金額 A-B	% A/B*100
営業収益	9,783	16,555	▲6,772	59.1
高速道路事業	9,279	16,005	▲6,726	58.0
(料金収入)	6,418	5,885	533	109.1
(道路資産完成高等)	2,862	10,120	▲7,258	28.3
関連事業	504	550	▲46	91.6
(休憩所事業)	325	373	▲48	87.1
(その他)	178	177	1	100.6
営業利益	2	30	▲28	6.7
高速道路事業	▲41	▲30	▲11	136.7
関連事業	43	60	▲17	71.7
経常利益	18	20	▲2	90.0
当期純利益	6	13	▲7	46.2

(通期見込の摘要)

○料金収入 (前回 5,885 億円→今回 6,418 億円 (533 億円の増))

- ・4月の料金割引再編後の状況を反映

○道路資産完成高等 (前回 10,120 億円→今回 2,862 億円 (7,258 億円の減))

- ・新東名高速道路 浜松いなさ JCT～豊田東 JCT 間の開通時期の延期 (2014 年度末の開通予定であったものを 2015 年度末までに開通予定としたもの。7月23日公表) による道路資産完成高の減のほか

○休憩所事業営業収益 (前回 373 億円→今回 325 億円 (48 億円の減))

- ・中間決算の状況を踏まえて、休憩所事業の店舗売上の見通しを反映

○高速道路事業営業損失 (前回 ▲30 億円→今回 ▲41 億円 (11 億円の増))

- ・高速道路事業営業損失の見通しには、高速道路事業に係る利益剰余金 (安全性向上積立金) を活用して安全性向上に関係する事業を実施することによる損失 (40 億円) が含まれていません。

以 上